

# エコアクション21

## 環境経営レポート

(2022年11月1日～2023年3月31日)

1. 組織の概要	P.2
2. 対象範囲	P.2
3. 環境経営方針	P.3
4. 実施体制	P.4
5. 環境経営目標	P.5
6. 環境経営計画に基づき実施した取り組み内容	P.6
7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績及び環境経営の実績・ 取組結果とその評価(実績には二酸化炭素排出量を含む)、 並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画	P.7
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、 並びに違反、訴訟などの有無	P.8
9. 代表者による全体の評価と見直し・指示	P.8

2023年6月15日発行

株式会社 鈴木製作所

## 1. 組織の概要及び対象範囲

・事業者名 株式会社 鈴木製作所

・代表者氏名 代表取締役 鈴木 喜浩

・環境管理の責任者・担当者及び連絡先

環境管理責任者 遠藤 り加

担当者 遠藤 り加

TEL/FAX 045-507-7831/045-507-7832

MAIL [rika@suzuki-inc.jp](mailto:rika@suzuki-inc.jp)

・所在地

事業所名 本社・工場

〒 224-0053 神奈川県横浜市都筑区池部町3288

・事業活動の内容

精密板金・溶接加工

・事業規模 2021年度(2021年4月～2022年3月)

売上高 3.5億

従業員数 20名

延床面積 825m<sup>2</sup>

## 2. 対象範囲(全組織・全活動)

(1)認証・登録対象組織

本社・工場

(2)認証・登録対象活動

精密板金、溶接加工

### 3. 環境経営方針

#### 環境経営方針

##### 【企業理念】

当社は、地球環境保全の重要性を認識し、精密板金・溶接加工の製造を主とする事業活動を行う中で環境への配慮と環境汚染の予防に努め、環境にやさしい「ものづくり」を通してより良い社会の実現を目指します。

##### 【行動指針】

1. 環境負荷の低減を図るため、以下の活動に取り組みます。

- (1)省エネ(電気、燃料)を推進し二酸化炭素の排出量を削減します。
- (2)廃棄物の排出量を削減します。
- (3)水の使用量を節水に心がけます。
- (4)化学物質の使用量に対して適切な量を管理します。
- (5)材料の無駄を減らすため、不良を減らします。

2. 事業活動にあたっては環境関連法規等を遵守します。

3. 環境経営の活動は、継続的改善を実施します。

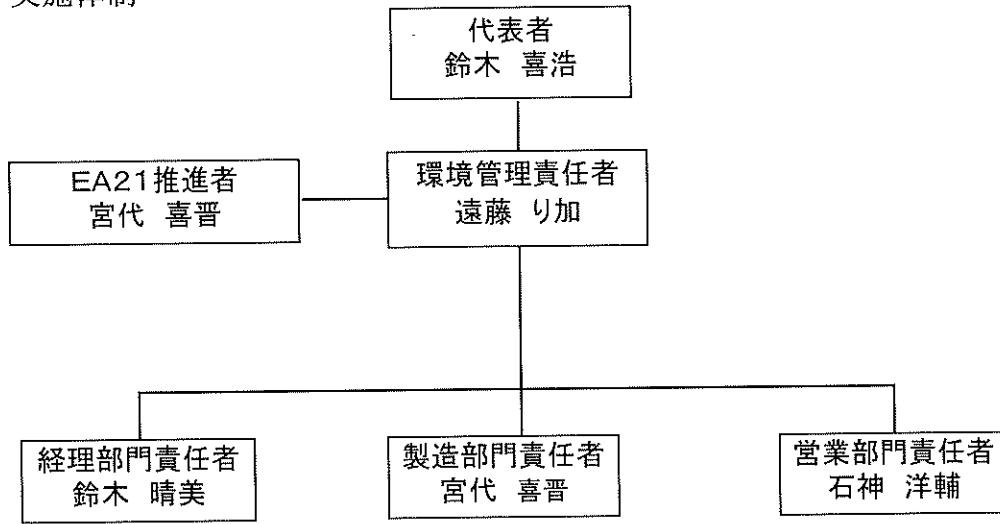
4. 環境方針は全ての従業員に周知します。

2022年11月1日制定

株式会社 鈴木製作所

代表取締役 鈴木 喜浩

#### 4. 実施体制



各自の役割、責任及び権限	
代表者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境管理の責任者の任命</li> <li>2. 環境経営方針の制定</li> <li>3. 環境経営システムの実施および管理に必要な資源の準備</li> <li>4. 環境経営システムの定期的見直し・指示</li> <li>5. 社内情報の外部公開可否決定</li> </ol>
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境経営システムの確立、実施、維持、継続的改善</li> <li>2. 代表者への環境経営システムの実施状況報告</li> <li>3. EA21事務局の責任者として事務局運営</li> <li>4. 従業員それぞれの業務・役割に応じ、必要な教育訓練を適切に計画・実施する</li> <li>5. 関連法規などの取りまとめ表の維持管理、遵守徹底</li> <li>6. 環境関連文書及び記録の作成・保管</li> </ol>
EA21事務局	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境管理の責任者の補佐</li> <li>2. 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>3. 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>4. 環境経営活動の実績集計</li> <li>5. 環境関連法規などの取りまとめ表に基づく遵守確認・評価の実施</li> <li>6. 環境関連の外部コミュニケーションの窓口、環境活動レポートの作成</li> </ol>
部門責任者	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自部門の環境経営システムの実施、環境経営方針の周知、従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>2. 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>3. 特定された項目の手順書作成及び運用管理</li> <li>4. 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成</li> <li>5. 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ol>
従業員	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境方針を理解し、部門の環境活動計画に従って活動する。</li> </ol>

## 5. 環境経営目標

環境経営目標	基準(実績)		年度目標		中期目標	
	2021年度		2022年度		2023年度 (2023年4月 ~2024年3月)	2024年度 (2024年度 ~2025年3月)
	通年(2021年4月 ~2022年3月)	運用期間相当	運用期間相当			
		通年(2021年11月 ~2022年3月)	通年(2022年11月 ~2023年3月)			
1. CO2排出量の削減	(排出量) 総量 105,562 kg-CO2	(排出量) 総量 45,393 kg-CO2		44,939 kg-CO2	104,506 kg-CO2	104,506 kg-CO2
2. 電力使用量の削減	(生産量当り) 192,624kWh (85,332kg-CO2)	(生産量当り) 79,389kWh (35,169kg-CO2)	1%削減 78,595kWh	(34,817kg-CO2)	(84,479kg-CO2)	1%削減 190,697kWh (84,479kg-CO2)
3. 車燃料使用量の削減	(生産量当り) 7,097L (16,465kg-CO2)	(生産量当り) 2,784L (6,458kg-CO2)	2%削減 2,728L (6,329kg-CO2)	(16,136kg-CO2)	2%削減 6,955L (16,136kg-CO2)	2%削減 6,955L (16,136kg-CO2)
4. 灯油使用量の削減	1,512L ( 3,765 )	1,5120L ( 3,764 )	維持管理 1,512L ( 3,726 )	維持管理 1,512L ( 3,764 )	維持管理 1,512L ( 3,764 )	維持管理 1,512L ( 3,764 )
5. 一般廃棄物排出量の削減	数値データ無	数値データ無		36.3kg	22年度実績の1%削減 86kg	22年度実績の1%削減 86kg
6. 水使用量の削減	(水使用量) 140m3	(水使用量) 36m3		36m3	122m3	122m3
7. 化学物質使用量の削減	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
8. 製品の品質確保(不良品率削減)	(不良品件数) 106件	(不良品件数) 36件	(不良品件数) 25件	5件削減 101件	10件削減 96件	
9. 自らが生産・販売・提供する製品の環境性能の向上及びサービスの改善	購入枚数 ダンボール 1694枚	購入枚数 ダンボール 563枚	通り箱形式にして効率化を図るようにする ・定性的判定をする	通り箱形式にして効率化を図るようにする ・定性的判定をする	通り箱形式にして効率化を図るようにする ・定性的判定をする	通り箱形式にして効率化を図るようにする ・定性的判定をする
		10枚削減 ダンボール 553枚		ダンボール 1280枚削減		ダンボール 1280枚削減

\* 二酸化炭素排出係数:0.443kg-CO2/kWh(調整後排出係数:東京電力、H29.12.21公表)

## 6. 環境経営計画及び環境経営計画に基づき実施した取組内容

環境経営計画	環境経営計画に基づき実施した取組内容
1. CO2排出量の削減 ・電力、化石燃料使用量の削減 ・作業効率の向上	・不使用時には電源OFF ・レイアウト作業動線の見直し→改善
1.1電力使用量の削減 ・LED照明への切替 ・エアコンの温度管理	・工場すべての蛍光灯の内約100%をLED化 ・夏季:28°C、冬季:21°Cを目指した
1.2車燃料使用量の削減 ・夏季以外のカーエアコンの抑制	・AUTO設定での使用
1.3灯油使用料の維持管理	・室内温度16°以下より電源ON
1.4. 一般廃棄物排出量の削減 ・分別の徹底	・外国人従業員にもわかりやすいよう絵・色での表示
1.5. 水使用量の削減 ・節水シールを添付・水圧調整	・手洗い場、トイレなどに「節水」シールを貼付した
1.6. 化学物質使用量の削減 ・有害物質削減の意識改善 ・シート洗浄機への移行	・保管容器の変更 ・シート洗浄機導入済

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価(実績には二酸化炭素排出量を含む)  
並びに次年度の環境経営目標及び環境経営計画

○:目標達成、×:目標未達

環境経営計画 ・取り組み内容	取組結果とその評価(2022年11月～2023年3月)			
	環境経営目標	環境経営計画の 実績	取組 結果	取組結果の評価と 次年度の環境経営計画取り組み
1. CO <sub>2</sub> 排出量の削減 ・作業効率の向上	基準年の1%削減 44,939 kg-CO <sub>2</sub>	1%削減 41,463 kg-CO <sub>2</sub>	○	・電力削減目標達成。 ムダな電力消費を減らし目標達成。
①電力使用量の削減 ・装置の不使用時電源 OFF ・エアコン温度設定最適化	基準年の1%削減 78,595kWh (34,817kg-CO <sub>2</sub> )	1%削減 73,128kWh (32,395kg-CO <sub>2</sub> )	○	・目標達成。 ・社内共有やPOPでの呼びかけ○。
②車燃料使用量の削減 ・夏季以外のカーエアコン の抑制	基準年の2%削減 2728L (6,329kg-CO <sub>2</sub> )	1%削減 1,9450L (4,513kg-CO <sub>2</sub> )	○	・目標未達。現状維持。 ・納品回数やルートの見直しを行なう。
③灯油使用量の 維持管理 ・室内温度16°以下より 電源ON	1,512L (3,726kg-CO <sub>2</sub> )	1,829L (4,554kg-CO <sub>2</sub> )	×	・目標未達。 ・維持管理ができるよう購入量の 掲示を行い見える化する。
2. 一般廃棄物排出量の 削減 ・分別の徹底	36.3kg	1%削減 可燃ごみ17.8kg 不燃ごみ18.5kg	○	・目標達成。 社内共有やPOPを作成し、 ゴミの削減を呼びかける。
3. 水使用量の削減 ・節水シールを添付 ・水圧調整	36m <sup>3</sup>	44m <sup>3</sup>	×	・目標未達。 節水POP等で再度呼びかけ 社内にも定期的に発信する。
4. 化学物質使用量の 削減 ・有害物質削減の意識改善 ・シート洗浄機への移行	適正管理	適正管理	○	・目標達成。 次年度はシート洗浄機を 活用し使用量削減に努める。
5. 製品の品質確保 (不良品件数削減)	不良件数 25件	不良件数 25件	○	・目標達成。 不良が出た際の教育、仕損費を算出し 掲示することで更なる削減を目指す。
6.自らが生産・販売・提供 する製品の環境性能の 向上及びサービスの改善 (梱包箱枚数削減)	10枚削減 ダンボール 553枚	購入枚数 ダンボール 706枚	×	・目標未達。 ・購入枚数を見える化し 通い箱を積極的に使用する。  通り箱の数量を増やし積極的に梱包箱の 購入枚数を削減する。

8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無  
適用される主な環境関連法規などは次のとおりである。

適用環境関連法規等	適用される事項(施設、物質、事業活動等)
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物(金属クズ、廃プラスチック、廃油等)
騒音・振動規制法	圧縮機、動力プレス、液圧プレス、機械プレス
家電リサイクル法	電気冷蔵庫、エアコン、電気洗濯機
フロン排出抑制法	第一種特定製品
横浜市生活環境保全条例	動力プレス

環境関連法規等の遵守状況を確認し評価した結果、環境関連法規等への違反・訴訟はありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

9. 代表者による全体評価と見直し・指示

(1) 全体評価

エコアクション21を構築し、5ヶ月の運用期間を経て目標の達成状況、計画の実施状況及び法規等の遵守状況を見る限り、十分とは言えないものの主要な環境活動は概ね実施できた。またCO2排出量、電力使用量の削減については重要視して取り組んでいく。  
半期に1度見直しを行い、目標達成に向けた取り組みを行う。

(2) 見直し・指示

従って環境経営方針は変更しないが、活動テーマによっては改善の余地が残されおり、今後社員が一丸となってシステムの充実と改善に取り組みます。

(2)-1. 環境経営方針

変更無し。

(2)-2. 環境経営目標、環境経営計画

今回策定し、活動を開始した環境経営活動の方針は、現在のままの形で変更しないこととする。

①二酸化炭素の排出、電力使用量の削減、車燃料の使用量の削減共に達成であった。

だが灯油使用量、水使用量の削減については未達成であった。

灯油使用量に関しては購入量の掲示を行い見える化をすることで次年度は目標達成を目指す。

水の使用量に関しては手洗い場等にPOPを掲示し注意喚起を行うと共に半期の見直し時に確認を行う。  
目標、環境活動計画は変更しない。

②従来、ダンボールの使用枚数を把握していなかったが、購入量を把握ができたことから来年度の目標設定が可能となった。新たな取り組みとして通い箱を導入し購入量削減を目指す。  
環境経営計画は変更しない。

③電力使用量は、機械や日常業務など日々の生活に欠かさない資源であるため現状より大幅に削減することは実際難しいが、電力削減意識を全従業員が持ちムダのないような使用を呼びかける。

④システム構築に際し、該当法規など等の調査検討に注力した結果、適用事項が明確になり、計画や実施項目が見えてきた。社内教育訓練を行い従業員の理解を深める。

(2)-3. 実施体制

従来から業務執行のための構築されている組織体制を基本的に変更することなしに設けたEA21推進のための現行の体制を変更することなく維持する。

定期的に目標達成までの見直しを行う。POPを使用しての注意喚起や各部門長により注意掛け等で社員の意識づけを行っていく。